

部 方 針 書

年度	部名	部長名
R8	土木建設部	國司 哲也

1 部の経営方針（部全体を俯瞰したマネジメントの目標）

No	経営方針・取組の方向性（業務、組織、人材に関するマネジメント目標を含む）
1	【部の経営方針】 市民の安全と快適な暮らしを守る「地域インフラの守り手」として、地域の方々や関係機関と力を合わせ、次世代に技術と誇りをつなぎ、誰もが安心して暮らせる持続可能なまちづくりに取り組みます。
2	1. 暮らしを支えるインフラを、未来へつなぐ 道路や橋、河川、下水道など、大切なまちの資産を長く、安全に使い続けられるよう、計画的な点検と修理（メンテナンス）を大切にし、地域の声に耳を傾け、より良いインフラ環境を整えます。
3	2. もしもの時に備え、信頼を育む 災害時にも迅速・的確に対応できるよう、常に危機管理意識を高め、事業の進め方や情報をオープンにすることで、市民の皆様からの信頼を大切にする組織を目指します。
4	3. 「何が良くなったか」を大切にする、まちづくり ただ工事を行うだけでなく、その結果、地域の皆さんの生活がどう快適になったかを常に追求し、ICTなどの新しい技術も積極的に活用するとともに、限られた予算や人員でも、最大限の効果を発揮できるよう工夫を重ねます。
5	4. 経験と知恵を未来の担い手へ 培ってきた技術やまちづくりのノウハウを、次の世代の職員へと確実に引き継ぎ、将来の宇部市を支える人材を大切に育て、専門性を磨き続けます。
6	5. いきいきと働ける環境が、より良い仕事を生む 職員がいきいきと働ける環境こそが、質の高いサービスを提供するための基盤であると考え、職員一人ひとりが心身ともに健康で、仕事と生活の両方を大切にできる職場づくりを進めます。
人財育成・内部統制	事務処理ミスをなくすため、各職場や職員一人ひとりが「凡事」を明確化し、自覚をもって適正に業務を遂行させるとともに、「リスク一覧」の重要性を認識し、その内容が形骸化していないか適宜チェックを行い、行政の質の向上につなげる。ミスが発生した場合は、個々のケアレスミスに留めず、発生の原因を分析し、再発防止につなげる。

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	土木河川課	藤田 重治

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

・河川改修や土砂災害対策といったハード対策を推進するとともに、洪水ハザードマップ作成をはじめとするソフト対策にも取り組み、地域の総合的な防災・減災力の強化を図る。
・内水氾濫が発生した河川や水路に設置した監視カメラ、簡易型水位計、浸水センサから得られる情報を活用し、大雨時の初動体制を構築するとともに、災害リスクを「見える化」することで、地域住民の早期の防災行動を支援する。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	止水板設置補助金の交付を行い、住民や事業者による自主的な浸水対策を支援することで、安心・安全な暮らしを確保	その他	申請件数(累計:件) (事業期間:R8～R10年度)	70件 (R10年度末)	—	25件
2	宇部西消防署・宇部中央消防署東部出張所の建替えによる消防力の強化	前期実計(重点1)	①宇部西消防署建替え ②宇部中央消防署東部出張所建替え	①R8年度完成 ②R13年度完成	—	①造成工事 ②修正設計・家屋調査
3	準用河川や指定水路の堆積土等の除去を行い、大雨時の河川の氾濫を防止することで、安心・安全な暮らしを確保	個別計画(緊急浚渫推進事業計画)	事業進捗率(事業費:%) (事業期間:R7～R11年度)	100% (R11年度末)	16.9%	42.0%
4	急傾斜地崩壊危険区域に指定した斜面の崩壊防止工事を行うことで、安心・安全な暮らしを確保 (浜田(一)(2)地区)	個別計画(緊急自然災害防止対策事業計画)	事業進捗率(事業費:%) (事業期間:R7～R10年度)	100% (R10年度末)	20.0%	60.0%
人財育成/内部統制	・無理な時は無理と言える職場環境づくりを目指す。 ・個々人が「凡事徹底」を実践し、常にその意識を持って職務に当たること で、信頼される職員を目指す。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
11	0	1	

会計年度職員	臨時職員
0	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	宇部市止水板設置補助金交付事業	安心安全2		5,000千円	近年頻発する豪雨により道路冠水や家屋等への浸水被害が発生しており、浸水被害を軽減するため止水板の購入費や工事費の一部を補助することで市民の防災意識を高める。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	・今年度からの新規事業であるため、過去に浸水被害が生じた家屋等の所有者に対してPR活動を行い、利用促進を図る。 ・協力が得られた申請者にモニタリングを実施する。				申請件数(累計：件) (事業期間：R8年度～R10年度) 現状(R7年度末) R8年度末 — 25件
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	宇部西消防署・宇部中央消防署東部出張所建替事業	安心安全2	—	0千円	老朽化した消防施設の更新を着実に進めることで、防災・消火力の強化を図る。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	防災危機管理課 受託事業 62,000千円(連携課：防災危機管理課・消防局・営繕課) 【宇部西消防署】 ・建屋解体工事に先立ち家屋1件の調査委託、解体工事完了後の造成工事 【宇部中央消防署東部出張所】 ・盛土規制法に伴う実施設計業務委託、工事に先立ち周辺の家屋5件の調査委託				西消防署：家屋調査、造成工事 東部出張所：修正設計、家屋調査 現状(R7年度末) R8年度末 — 西消防署 完成
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	緊急浚渫推進事業(準用河川・指定水路)	—	—	18,202千円	土砂の堆積が進行する河川において、定期的な浚渫を行うことで豪雨時の氾濫を未然に防止する。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	・河川の氾濫防止対策として、準用河川12箇所、指定水路11箇所の浚渫を実施する。 (緊急浚渫推進事業債の特別措置が、R11年度まで5年間延長されたため継続的に実施)				事業進捗率(事業費：%) (事業期間：R7年度～R11年度) 現状(R7年度末) R8年度末 16.9% 42.0%

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	浜田(一)(2)地区急傾斜地崩壊防止補助事業	—	—	26,000千円	災害に強い強靱な地域づくりを推進するため、がけ崩れにより多くの住居者に危害を及ぼす恐れのある区域を「急傾斜地崩壊危険区域」に指定し、急傾斜地崩壊防止工事を施工する。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
4	・R8年7月末に急傾斜地崩壊危険区域の指定について、県に申請する。 ・R8年度から法枠工等の法面補強による急傾斜地崩壊防止工事を実施する。 (R8工事:延長L=25m、法枠工L=250m、法面工A=225㎡ R9工事:延長L=25m、法枠工L=250m、法面工A=225㎡)				事業進捗率(事業費:%) (事業期間:R7年度~R10年度) 現状(R7年度末) 20.0%  R8年度末 60.0%

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	道路整備課	田中 祐治

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

・安全なインフラの継承を行うため、老朽化対策を計画的に進め、誰もが安心して利用できる安全な道路ネットワークを維持する。
 ・「通学路合同点検」やLINE通報といった市民からの情報をGIS(地理情報システム)で一元管理することで、市民の意見を効率的に交通安全対策へ反映させることにより、市民と協働して、安心・安全で快適な道路環境の整備を推進する。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	老朽化した橋梁の修繕を計画的かつ効率的に実施することで、維持管理コストの縮減及び平準化を図るとともに、道路ネットワークの安全性・信頼性を確保	個別計画 (橋梁長寿命化 修繕計画)	「橋梁長寿命化修繕計画」に基づく道路橋修繕実施箇所数(累計:箇所) (事業期間:R4～R8年度)	35箇所	26箇所	35箇所
2	JA厚南前、清水川交差点の慢性的な交通渋滞を解消することで、安心・安全で快適な道路空間を創出	その他	交差点改良 (事業期間:R2～R10年度)	右折レーン設置	【JA厚南前】 測量・設計 【清水川】 用地・補償	【JA厚南前】 用地取得・工事 【清水川】 工事
3	老朽化した舗装の修繕を計画的かつ効率的に実施することで、維持管理コストの縮減及び平準化を図るとともに、安心・安全で快適な道路空間を創出	前期実計	「道路の個別施設計画(舗装編)」に基づく舗装長寿命化修繕進捗率(累計:100%) (事業期間:R4～R8年度)	100%	83%	90%
4	薄くなったり、消えている路面標示を更新することで、安心・安全で快適な道路空間を創出	個別計画 (路面標示 維持補修計画)	劣化し薄くなった路面標示の更新延長(累計:km) (事業期間:R4～R8年度)	231km	201km	231km
人財育成/内部統制	苦情報告をGISにプロットすることで、情報の可視化を行い、対応漏れや遅延を防止する。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
23	1	0	

会計年度職員	臨時職員
0	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
1	橋梁長寿命化修繕事業	—	未来1	233,739千円	今後増大が見込まれる橋梁の維持管理に要するコストの縮減を図りながら通行の安全を確保する必要がある。 (R7年度末で、市が管理している橋梁437橋のうち、建設後50年以上を経過する橋梁は267橋(61%)、20年後には386橋(88%)となる見込。)
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき道路橋の修繕工事を実施する。 R8年度分着手(9箇所:矢矯橋0763、無名橋0193、福間橋、赤田橋、東才の上橋、土田橋、無名橋0126、白土第2橋、下郷橋) R7年度繰越着手分(2箇所:福間下橋、伊佐地橋)				「橋梁長寿命化修繕計画」に基づく道路橋修繕実施(着手)箇所数(累計:箇所)R4～R8年度 現状(R7年度末) 26箇所 R8年度末 35箇所
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
2	西宇部妻崎線道路整備事業 東新川野中線道路整備事業	—	—	13,700千円 57,500千円	JA厚南前交差点(西宇部妻崎線)及び清水川交差点(東新川野中線)は、双方ともに周辺に多くの住宅や商業施設があることから、交通量が多く慢性的な渋滞が発生しているため、その対策が急務である。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	【西宇部妻崎線】 右折レーンの設置に向けて用地取得の業務を進め、工事を実施する。 【東新川野中線】 右折レーンの設置に向けてユニクロ側の工事を実施する。				各交差点の取組内容 現状(R7年度末) 用地及び補償交渉 R8年度末 工事実施
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
3	舗装整備事業(舗装長寿命化修繕)	—	—	96,000千円	H25年度、28年度に実施した、路面性状測定車による調査の結果、調査路線延長約180kmのうち、約32kmが区分Ⅲの要修繕レベルであることが確認され、老朽化した舗装の修繕を計画的かつ効率的に実施していく必要がある。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	「道路の個別施設計画(舗装編)」に基づき道路の修繕工事を実施する。 R8分(L=2.2km 10路線) R7繰越分(L=0.2km 1路線)				「道路の個別施設計画(舗装編)」に基づく舗装長寿命化修繕進捗率(累計:100%) 現状(R7年度末) 83% R8年度末 90%

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	交通安全施設等整備事業(路面標示工事)	—	—	30,000千円	路面標示は、道路交通に関する規制、警戒、案内、指示等の交通ルールに関する情報を提供する重要な施設であり視認性の確保が必要である。また、近年、路面標示を読み取り、運転者の運転支援を行う技術が定着しつつあり、路面標示が薄れた状態では、この機能が十分に機能しない可能性が懸念されており、適切な維持管理が求められている。
	R8年度の実施内容(何をやるか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
4	市道の路面標示について、劣化状況や塗り替えの必要性に関する情報を、通学路合同会議、地元からの要望、市民からの通報(宇部公式LINEなど)、職員によるパトロールといった複数のチャネルから集約した情報やWEB上の航空写真の状況を参考に、現地確認の結果に基づき、交通量が多く、かつ緊急性の高い箇所から優先的に塗り替えを実施する。また、市道以外の路面標示や横断歩道などについては、それぞれの管理者に情報提供するなど、連携して、適切な管理・更新に取り組む。				劣化し薄くなった路面標示の更新延長 (累計:km) 現状(R7年度末)201km R8年度末231km

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	下水道経営課	岡本 浩之

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

近年の物価高騰による維持管理費の増大や人口減少等に伴う下水道使用料の減少、施設の老朽化など、経営状況の変化を的確に捉え、官民連携手法を積極的に活用するなど、経営の健全化・効率化を推進し、安心安全な下水道サービスを未来へとつなげていく。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	現行の下水道事業総合計画(R4～R13)の中間年次における、新たな10年間(R9～R18)を見据えた実効性のある経営戦略の策定	個別計画(下水道事業総合計画)	下水道事業総合計画の改定	計画改定 (R8年度末)	-	計画改定
2	西部処理区コンセッション事業において、運営状況を適切にモニタリングし、官民連携による相乗効果(宇部市モデル)を創出することで30年先まで安定した事業運営を維持	個別計画(下水道事業総合計画)	事業の履行確認 (事業期間:R8～R37年度)	適切な履行確認 (R37年度末)	-	モニタリング体制の確立
3	芝中ポンプ場の再構築事業に官民連携手法(DB方式)を活用し、効果的かつ経済的な整備を推進	個別計画(下水道事業総合計画)	工事進捗率(事業費ベース) 累計: % (事業期間: R7～R13年度)	100% (R13年度末)	2.6%	14.8%
4	汚水処理手法(公共下水道・浄化槽)の最適化により環境整備を促進することで、公共用水域の水質保全と生活環境の向上	前期実績 (施策No.5-8)	汚水処理人口普及率 累計: 95%	95% (R8年度末)	94.1%	95.0%
人財育成/内部統制	互いを尊重し相乗効果を生み出すことで、安心して共に成長できる働きやすい職場風土を醸成する。 業務プロセスの可視化により、属人化を防止し、専門スキルの継承を推進する。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
7	1	0	

会計年度職員	臨時職員
0	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	下水道事業総合計画の改定	重点実装②-2	—	ゼロ予算	新たに10年先を見据えた実効性のある経営戦略を策定(現総合計画の改定)することで、安心安全な下水道サービスを未来へとつなげていく
1	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	1 現行の下水道事業総合計画(R4～R13)が中間年次(5年目)を迎えたため、新たに10年先を見据えた「経営戦略」を策定する。 策定にあたっては、庁内の関係部署(下水道整備課・下水道施設課)と緊密に連携し、現状分析や将来需要に基づいた収支バランスを確保することで、実効性の高い「経営戦略」を策定する。 (連携課:下水道整備課・下水道施設課・財政課)				R9.3月 下水道事業総合計画の改定 現状(R7年度末) R8年度末 — ▶ 総合計画の改定
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	西部処理区コンセッション事業の履行確認	—	—	507,177千円	市が運営状況を適切にモニタリングし、官民連携による相乗効果を創出することで、効果的かつ安定した事業運営を維持する。これにより、安心安全な下水道サービスを堅持し、市民の暮らしを守るとともに、コスト削減効果を通じて、将来の急激な使用料上昇を抑制する。
2	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	2 事業開始初年度として、共創パートナーである運営事業者と下水道施設課とともに、円滑な運営体制を確立する。 ・事業運営を適切に監視するモニタリング体制を確立・運用するとともに、支払い等の事務手続きを確実に履行する。 ・運営事業者との連携・対話を通じて民間ノウハウやDX技術等の導入、災害時のバックアップ体制など相乗効果を発揮する。 ・事業者提案である広域汚泥処理について周辺自治体への聞き取りを行い、現状分析や課題整理を行う。(連携課:下水道施設課)				適切な履行確認(R37年度末) 現状(R7年度末) R8年度末 — ▶ モニタリング体制の確立
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	芝中ポンプ場再構築事業[DB方式]の進捗管理(事業費:約121億円)	—	—	1,328,700千円	市全体の約6割の汚水が集まる芝中ポンプ場を再構築し、浸水被害の防止と持続可能な下水道サービスを安定的に提供するとともに、民間ノウハウの活用(DB方式)によるコスト削減効果を通じて、将来の急激な使用料上昇を抑制する。
3	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	3 ・事業の進捗状況を確認し、遅延が生じないように適切に進捗管理を行う。 ・R8年5月に東部浄化センター内の旧施設の解体工事が完了し、その後、汚水ポンプ棟建設工事に着手する。 ・芝中ポンプ場から東部浄化センターへの送水管工事については、R8年12月の現場着手に向け、調整および施工管理を行う。 (連携課:下水道施設課)				工事進捗率(事業費ベース) R13年度末100% 現状(R7年度末) R8年度末 2.6% ▶ 14.8%

目標 No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	効率的な汚水処理手法の実施	—	—	ゼロ予算	国が示す10年概成であるR8年度までに、汚水処理人口普及率95%以上を目標とし、トイレの水洗化や生活排水の浄化ができる環境を整える。 (汚水処理人口普及率：公共下水道、農業集落排水、浄化槽で整備済の行政人口割合)
4	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	下水道整備課と緊密に連携しながら、公共下水道の污水管整備を推進するとともに、合併処理浄化槽の整備状況を含む汚水処理人口普及率の集計・分析を行うことで、R8年度の汚水処理概成を確実に促進する。 (連携課：下水道整備課)				汚水処理人口普及率
					現状(R7年度末) 94.1%

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	下水道整備課	田丸 聡

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

- ・污水管の整備及び合併処理浄化槽の普及促進により、快適な生活環境の確保と公共用水域の水質保全を図る。
- ・浸水対策重点整備地域の雨水整備を着実に行うとともに、老朽管の計画的な維持管理・改築更新工事を行うことにより、安心・安全なまちづくりを推進する。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	下水道管路施設の点検・調査を実施し、緊急度(危険度)の高い施設を把握するとともに、改築更新工事を実施することで、市民の安心・安全な生活環境を確保	個別計画 (下水道ストックマネジメント計画)	老朽管改築更新延長 (累積:km)	30.0km (R8年度末)	25.6km	30.0km
2	浸水対策重点整備地域の雨水渠等を整備し、浸水被害が軽減することで、災害に強い安全なまちづくりを推進	前期実計 (施策5-6)	浸水対策重点整備地域 整備面積 (累積:26.9ha)	22.8ha (R8年度末) 参考値:26.9ha	19.5ha	22.8ha
3	污水管の整備及び合併処理浄化槽の普及促進を行うことで、公共用水域の水質保全と快適な生活環境を確保	前期実計 (施策5-8)	污水处理人口普及率 (累積:95.0%)	95.0% (R8年度末)	94.1%	95.0%
4	既存下水道管路施設の耐震化を図ることで、災害に強く持続可能な上下水道システムを構築	個別計画 (宇部市上下水道耐震化計画)	耐震性能 確保済み下水道管路延長 (累積:km)	2.0km (R11年度末)	概略耐震対策 の立案	耐震診断及び 耐震補強詳細 設計
5	琴芝地区及び八王子地区の分流化対策工事等を実施し、雨天時浸入水や地下水の浸入を減少させ、污水处理費用を低減	個別計画 (宇部市下水道事業総合計画)	分流化対策工事件数 (累積:件)	360件 (R15年度末)	21件	60件
人財育成/内部統制	・課内業務の平準化を図るため、係間の連携・協力する体制を作る。 ・課内のコミュニケーションの活性化を図り、報告・連絡・相談のしやすい体制を整え、事務処理ミスを防ぐ。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
18	0	2	

会計年度職員	臨時職員

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
1	下水道管路施設の改築更新事業	—	—	873,130千円	下水道管路施設を改築更新することで、下水道管路施設に起因する道路陥没件数を減少させ、市民の安心・安全な生活環境を確保する。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	(点検・調査及び改築更新工事は継続的に実施) ・埋設後30年以上経過している下水道管路施設の点検・調査を約25km実施し、緊急度(危険度)を把握する。 ・緊急度(危険度)が高いと判定された下水道管路施設の改築更新工事を実施する。 ・包括的維持管理業務委託で実施する定期巡視の動画データを解析して得られた道路穴ぼこ等の情報を、速やかに道路管理者に報告する。(連携課:道路整備課)				老朽管改築更新延長(累積)
					現状(R7年度末) 25.6km R8年度末 30.0km
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
2	浸水対策事業	—	未来1	277,000千円	浸水対策重点整備地域の雨水渠等を整備することで、大雨時に浸水が発生している地域の解消を図り、災害に強い安全なまちづくりを推進する。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	(浸水対策重点整備地域(西宇部地区、琴芝地区、八王子地区、五十目山及び北蛭子雨水幹線)全体整備面積33.9haのうち、R8年度末整備目標22.8ha) ・琴芝地区、八王子地区及び五十目山雨水幹線の雨水施設整備工事を実施する。 ・過去に床下浸水の実績のある地区の住民には、今年度創設された止水板設置補助事業の周知を行い、自助による浸水対策への取り組みを促していく。(連携課:土木河川課)				浸水対策重点整備地域整備面積(累積)
					現状(R7年度末) 19.5ha R8年度末 22.8ha
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
3	効率的な汚水処理手法の実施	—	—	362,627千円	国の示す10年概成であるR8年度末での汚水処理人口普及率95%以上とする目標を達成するため、効率的な汚水処理手法により整備を促進し、公共用水域の水質保全を図る。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	・下水道整備計画区域内の東岐波丸尾地区などの汚水管整備工事を約15ha実施する。 ・下水道事業計画及び全体計画を縮小した区域に浄化槽設置補助金の上乗せを行い、合併処理浄化槽の普及促進を図る。				汚水処理人口普及率(累積)
					現状(R7年度末) 94.1% R8年度末 95.0%

目標 No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	下水道管路施設耐震化事業	—	—	21,500千円	下水道管路施設が被災した場合、公衆衛生の問題や交通障害など市民生活に大きな影響を及ぼすことから、管路施設の耐震化を図ることで災害に強い安全なまちづくりを推進する。
4	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	・宇部市上下水道耐震化計画で重要施設として位置づけた宇部市役所・宇部警察署・中央消防署から芝中ポンプ場までの管路施設約2.0kmのうち、R7年度業務でさらに詳細な診断が必要と判定された約1.3kmについて耐震診断を実施する。また、R7年度業務で耐震性能を有していないと判定された管路施設約0.5kmの耐震補強詳細設計を行う。				耐震性能確保済み下水道管路延長(累積)
					現状(R7年度末) R8年度末 概略耐震対策の立案 ▶ 耐震診断及び耐震補強詳細設計
目標 No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	不明水対策事業	—	—	15,400千円	下水道管路施設の老朽化や雨天時による浸入水の増加等に伴い、処理場での汚水処理量が増加していることから、不明水対策事業を実施し、汚水処理費用の低減を図る。
5	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	・琴芝地区の宅内排水施設調査を実施し、合流式と判明した家屋を対象に分流化工事を実施する。 ・神原処理分区を中心に、雨天時浸入水の影響が確認されている区域のマンホール内に水位計・流量計を設置して流入量の変動について調査し、さらなる区域の絞り込みを行う。				分流化対策工事件数(累積)
					現状(R7年度末) R8年度末 21件 ▶ 60件

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	下水道施設課	姫田 剛志

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

- ・放流水の汚濁負荷等の管理を適切に行い、公共用水域の水質保全を図る。
- ・劣化、老朽化した施設の改築更新や修繕、日常点検を適切に行い、設備の機能保持を図るとともに、大雨時には速やかに雨水を排水することで市民の生命や財産を守る。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	西部処理区コンセッション事業において、運営状況を適切にモニタリングし、官民連携による相乗効果(宇部市モデル)を創出することで30年先まで安定した事業運営を維持(再掲)	個別計画(下水道事業総合計画)	事業の履行確認 (事業期間: R8～R37年度)	適切な履行確認 (R37年度末)	-	モニタリング体制の確立
2	芝中ポンプ場の再構築事業に官民連携手法(DB方式)を活用し、効果的かつ経済的な整備を推進(再掲)	個別計画(下水道事業総合計画)	工事進捗率(事業費ベース) 累計: % (事業期間: R7～R13年度)	100% (R13年度末)	2.6%	14.8%
3	下水道施設の保全のため、改築更新を適切に行うことで、速やかな雨水排水と安心・安全で安定的な水処理を実現	個別計画(宇部市ストックマネジメント計画(第2期))	改築更新進捗率 (機器点数)累計: % (事業期間: R5～R9年度)	100% (R9年度末)	53%	87%
4	放流水に含まれる栄養塩類を管理することで、公共用水域における生物多様性を確保して豊かな海を創造	個別計画(山口県栄養塩類管理計画)	東部浄化センター放流水による10月～4月期の全窒素 平均値(mg/ℓ)	12.0mg/ℓ	10.5mg/ℓ	12.0mg/ℓ
5	電気料金が高騰する中、消化ガス発電設備を効果的に運転管理することで、能力を最大限に生かし、経済的かつ安定的な下水道サービスを提供	その他	年間の消化ガス発電量 (kwh/年)	120万kwh/年 (R10年度末)	89万kwh/年	100万kwh/年
人財育成/内部統制	職員の意見を反映するため、課内・係・班長会議などを活用して意思の疎通を図り、風通しの良い組織作りと処理場及びポンプ場の最適な運転管理を行う。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
34	6	2	

会計年度職員	臨時職員
0	1

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	西部処理区コンセッション事業の履行確認	—	—	507,177千円	市が運営状況を適切にモニタリングし、官民連携による相乗効果を創出することで、効果的かつ安定した事業運営を維持する。これにより、安心安全な下水道サービスを堅持し、市民の暮らしを守るとともに、コスト削減効果を通じて、将来の急激な使用料上昇を抑制する。(VFM約13.7%)
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
1	事業開始初年度として、共創パートナーである運営事業者と下水道経営課とともに、円滑な運営体制を確立する。 ・事業運営を適切に監視するモニタリング体制を確立・運用するとともに、支払い等の事務手続きを確実に履行する。 ・運営事業者との連携・対話を通じて民間ノウハウやDX技術等の導入、災害時のバックアップ体制など相乗効果を発揮する。 ・事業者提案である広域汚泥処理について周辺自治体への聞き取りを行い、現状分析や課題整理を行う。(連携課:下水道経営課)				適切な履行確認(R37年度末) 現状(R7年度末) — R8年度末 ▶ モニタリング体制の確立
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	芝中ポンプ場再構築事業[DB方式]の進捗管理(事業費:約121億円)	—	—	1,328,700千円	市全体の約6割の汚水が集まる芝中ポンプ場を再構築し、浸水被害の防止と持続可能な下水道サービスを安定的に提供するとともに、民間ノウハウの活用(DB方式)によるコスト削減効果を通じて、将来の急激な使用料上昇を抑制する。(VFM約14.4%)
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
2	・事業の進捗状況を確認し、遅延が生じないように適切に進捗管理を行う。 ・R8年5月に東部浄化センター内の旧施設の解体工事が完了し、その後、汚水ポンプ棟建設工事に着手する。 ・芝中ポンプ場から東部浄化センターへの送水管工事については、R8年12月の現場着手に向け、調整および施工管理を行う。 (連携課:下水道経営課)				工事進捗率(事業費ベース) R13年度末100% 現状(R7年度末) 2.6% R8年度末 ▶ 14.8%
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	下水道施設の改築更新事業	—	—	648,720千円	劣化や老朽化している施設の改築更新により、安定的な下水道サービスを確保する。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
3	・ストックマネジメント計画(第2期)に基づき、小串ポンプ場雨水自動除塵機や楠浄化センター紫外線滅菌装置などの改築更新を行い、下水道施設の機能維持を図る。				機器の改築更新進捗率:累計100%(R9年度末) 現状(R7年度末) 53% R8年度末 ▶ 87%

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	東部浄化センターの運転管理	—	—	ゼロ予算	公共用水域における生物多様性の確保及び水産資源の持続的利用の観点から、「きれいな」だけでなく「豊かな」水環境を求めるニーズに応える。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
4	・秋から春にかけて汚水に含まれる栄養塩類(窒素分)を除去する水処理工程のうち、嫌気運転の抑制により放流水中の窒素分を増加させる。 ・「きれいな海」と「豊かな海」を共存させ、公共用水域における生物の多様性や持続可能な水産資源を育める豊かな海を創造する。				10月～4月期放流水の全窒素平均値 (12.0mg/ℓ) 現状(R7年度末) 10.5mg/ℓ R8年度末 12.0mg/ℓ
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	東部浄化センター消化ガス発電事業	—	—	<発電事業> ゼロ予算 <施設改築> 80,000千円	既存施設である消化ガス発電設備を効果的に運転管理することで、能力を最大限に生かし、経済的かつ安定的な下水道サービスを確保する。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
5	・電気料金が高騰する中、東部浄化センターの年間電力消費量約300万kwh/年のうち、消化ガス発電によって1台平均12.5万kwh/年×8台＝100万kwh/年の発電量を目指して水処理や汚泥処理施設の整備を行うとともに、気候に合わせた「きめ細かな運転管理」を行う。				年間の消化ガス発電量: 120万kwh/年 (R10年度末) 現状(R7年度末) 89万kwh/年 R8年度末 100万kwh/年

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	地籍調査課	林 和彦

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

・円滑かつ正確に調査を行い地籍を明確化し、調査成果を活用することで土地に係るトラブル防止、災害復旧の迅速化や課税の適正化・公平化など市民サービスの向上を図る。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	・土地に係るトラブルの防止につながる境界調査による地籍の明確化 ・災害復旧の迅速化につながる精度の高い測量の実施 ・課税の適正化・公平化につながる調査成果の作成	個別計画 (地籍調査事業 第7次十箇年計画)	地籍調査面積(累計:km ²) (事業期間:R2～R11年度)	15.01km ² (R11年度)	5.62km ²	6.44km ²
人財育成/内部統制	・1on1ミーティング等を通じて、課内のコミュニケーションの活性化を図り、業務の共通認識を高める ・良好な職場環境づくりを構築し、地籍調査業務に関する研修等の受講により専門的知識・技能の向上に取り組む					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
6	0	0	

会計年度職員	臨時職員
0	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標 No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	地籍調査事業	—	—	53,472 (R7年度繰越 42,370千円含む)	土地の境界を明確化することで、災害復旧の迅速化、土地に係るトラブル防止、課税の適正化・公平化を図られるため、国土調査法に基づき地籍調査事業を推進する。
1	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	一年目工程 : 調査準備、地籍図根測量、一筆地調査、一筆地測量 二年目工程 : 地積測定、地籍図及び地籍簿作成、閲覧 三年目工程 : 成果認証、調査成果を法務局へ送付 資産税課 : 固定資産税関係所有者等関係情報の照会				第7次十箇年計画に基づく地籍調査面積 :累計 15.01km ²
					現状(R7年度末) 5.62km ² R8年度末 ▶ 6.44km ²